

第6回法政卒業生大学評価アンケート調査結果報告

- 1 8割以上の卒業生が「法政大学に満足」と回答
- 2 身につけることができた能力は、「教養」と「コミュニケーション力」
- 3 法政大学のイメージは「卒業生の活躍」と「社会的評価」
- 4 法政大学が今後さらに充実すべき点は、「教養」「専門性」「英語力」

法政大学大学評価室では、2016年7月～2016年9月にかけて、教育研究の質向上に資するデータの収集を目的に、2005年度（2006年3月）、2012年度（2012年9月・2013年3月）学部卒業生の皆様を対象にアンケート調査（郵送）を実施しました。

[有効回答数：2005年度卒 282件（回収率：8.2%） 2012年度卒 420件（回収率：8.7%）]

1 法政大学および卒業学部に対する満足度

図1.1および図1.2は、「現時点で、法政大学および卒業学部に対してどの程度満足したと感じていますか」との質問に対する回答結果です。法政大学に対する満足度（「満足している」+「やや満足している」の割合。以下同様に表記）は2005年度卒が82.7%（2004年度卒：78.2%）、2012年度卒が85.1%（2011年度卒：86.9%）、卒業学部に対する満足度は、2005年度卒が71.3%（2004年度卒：67.3%）、2012年度卒が78.1%（2011年度卒：73.5%）でした。

図1.1 法政大学に対する満足度

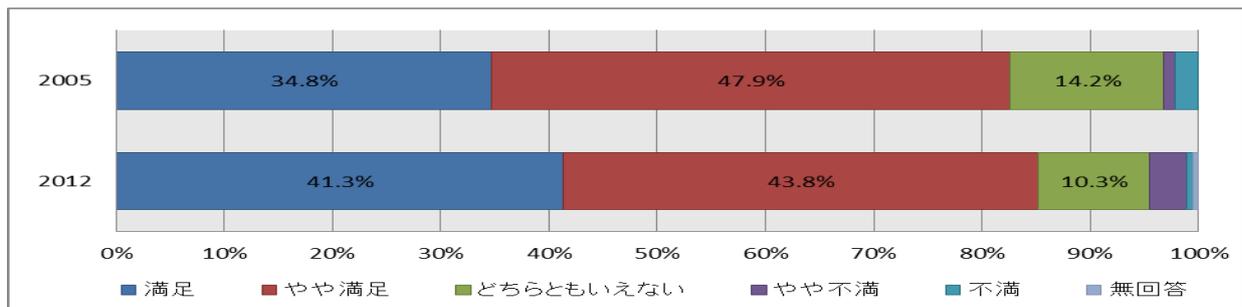
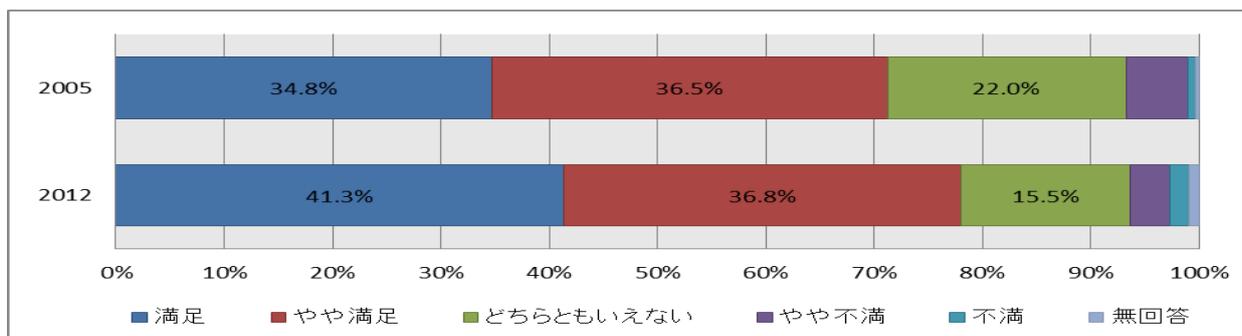


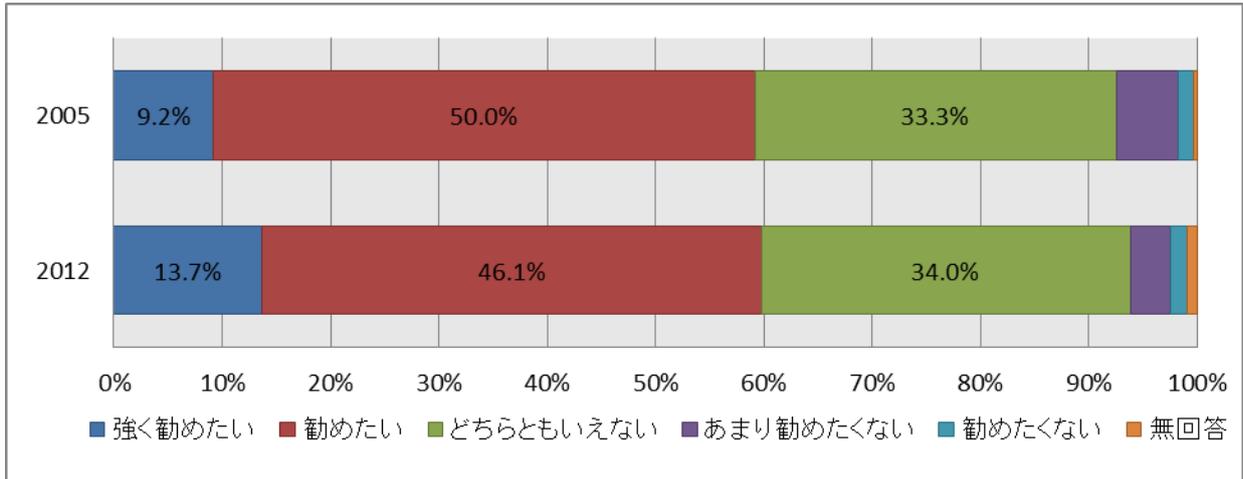
図1.2 卒業学部に対する満足度



2 法政大学を勧めたいと思うか

図2は、「もし身近に四年制大学への進学希望者がいる場合、法政大学を勧めたいと思いますか」の質問に対する回答を集計したものです。肯定的回答（「強く勧めたい」＋「勧めたい」の割合）は2005年度卒が59.2%（2004年度卒：56.4%）、2012年度卒が59.8%（2011年度卒：60.4%）となっています。

図2 法政大学を勧めたいか



3 大学での授業や活動を通して身につけた能力

図3.1および図3.2は、「大学での授業や活動を通して、以下の能力等を身につけることができましたか」との質問に対する回答結果です。①専門性、②幅広い教養、③課題を発見し、解決する能力、④コミュニケーション能力、⑤自分で判断する能力、⑥チームワーク力の6項目について質問しました。

肯定的回答（「そう思う」＋「いくらかそう思う」の割合）は、2005年度卒では「コミュニケーション能力」（61.7%）が、2012年度卒では「幅広い教養」（69.9%）が最も多く、否定的回答（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）については、2005年度卒・2012年度卒ともに「専門性」（それぞれ、31.9%、21.2%）が最も多い結果となりました。

図3.1 2005年度卒 身につけることができたと感じる能力（%）

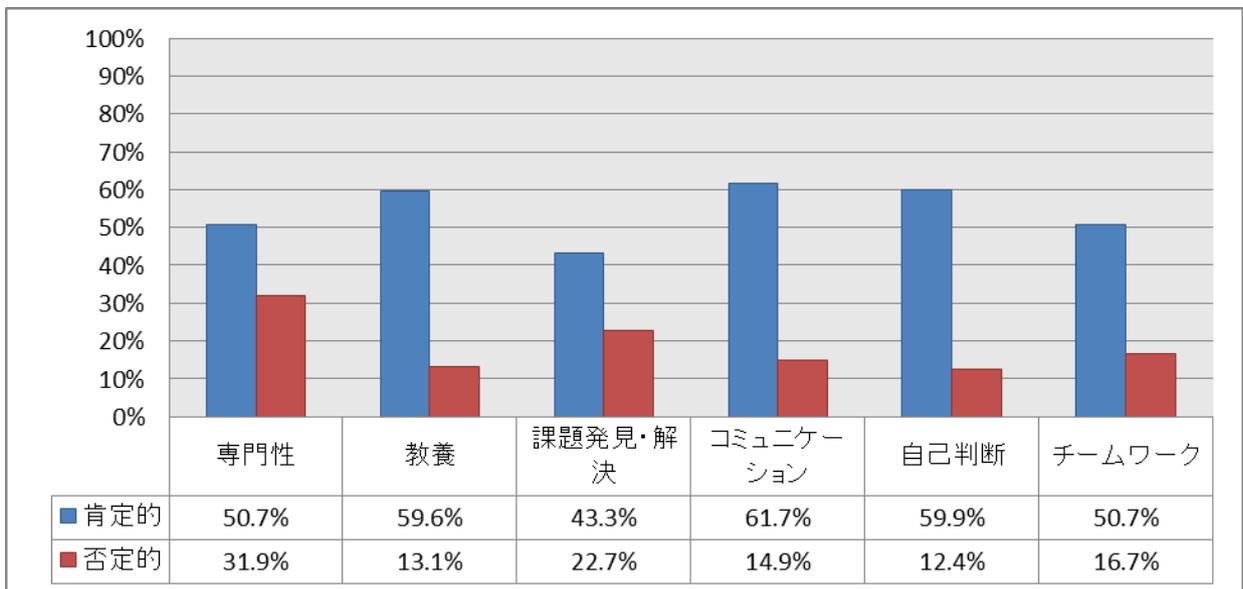
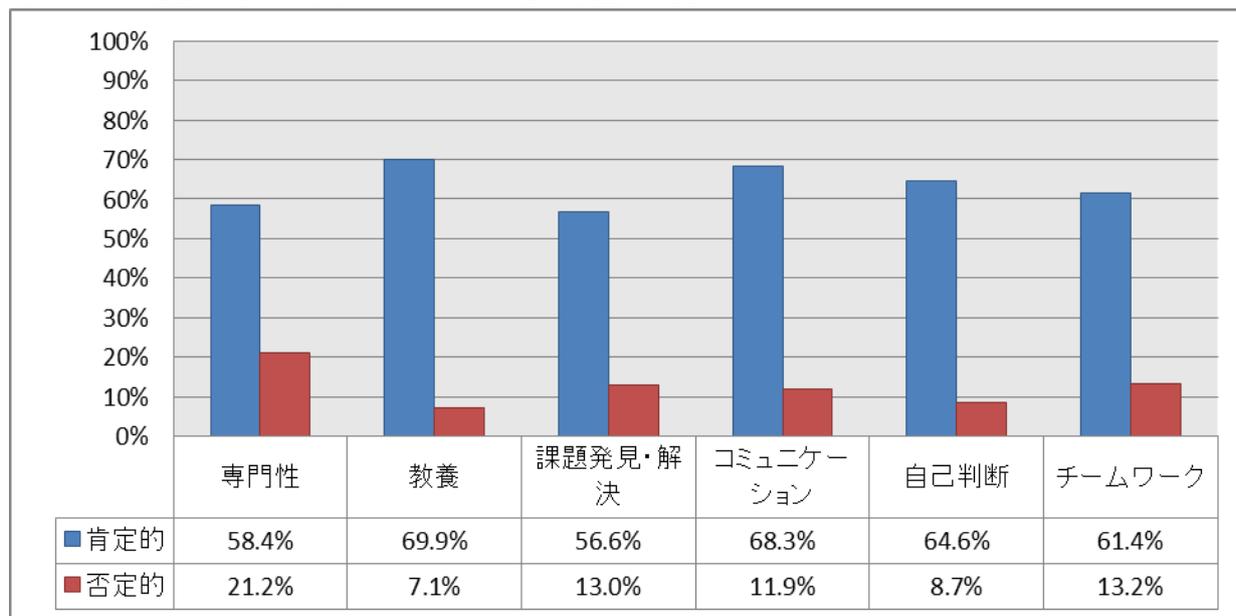


図 3.2 2012 年度卒 身につけることができたと感じる能力 (%)

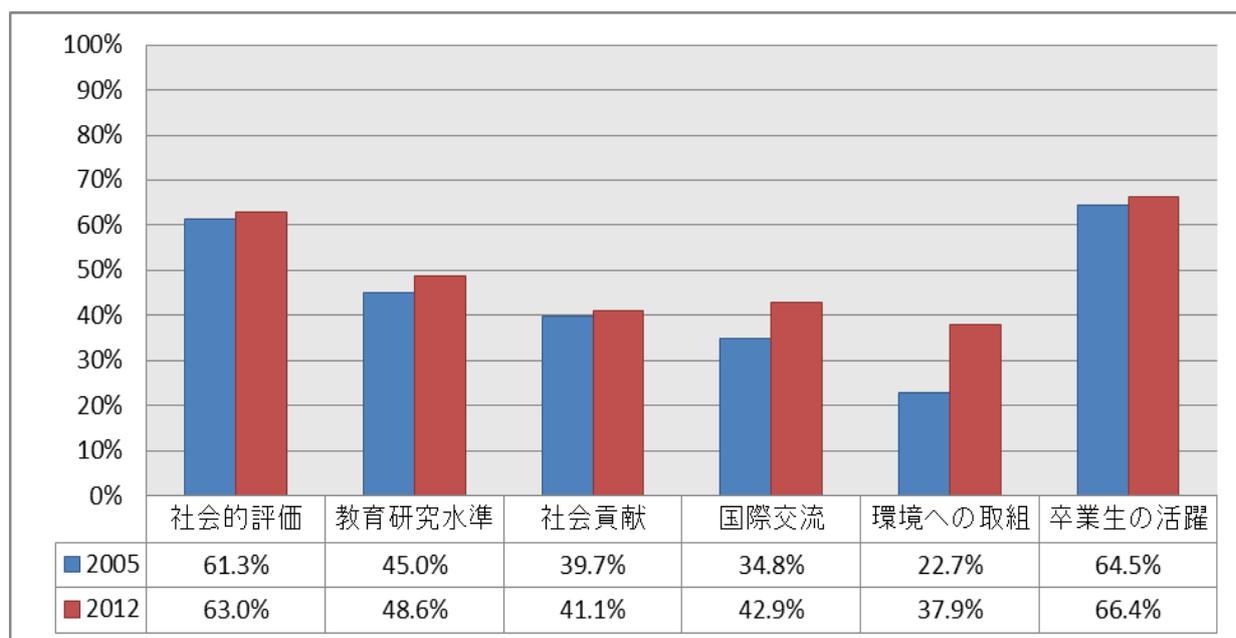


4 法政大学の評価（イメージ）

図 4 は、「法政大学は社会からどのように評価されていると思いますか」の質問に対する回答を集計した結果です。①社会的に高く評価されている、②教育研究水準は相対的に高い、③教育研究を通して社会に貢献している、④国際交流事業は活発である、⑤環境への取組を通して社会に貢献している、⑥卒業生は社会的に活躍している、の 6 項目について質問しました。

肯定的回答は、2005 年度卒では、「卒業生は社会的に活躍」（64.5%）が最も多く、「環境への取組」（22.7%）が最も低くなっています。2012 年度卒についても 2005 年度卒と同様の結果（それぞれ、66.4%、37.9%）となりました。

図 4 法政大学のイメージ (%)



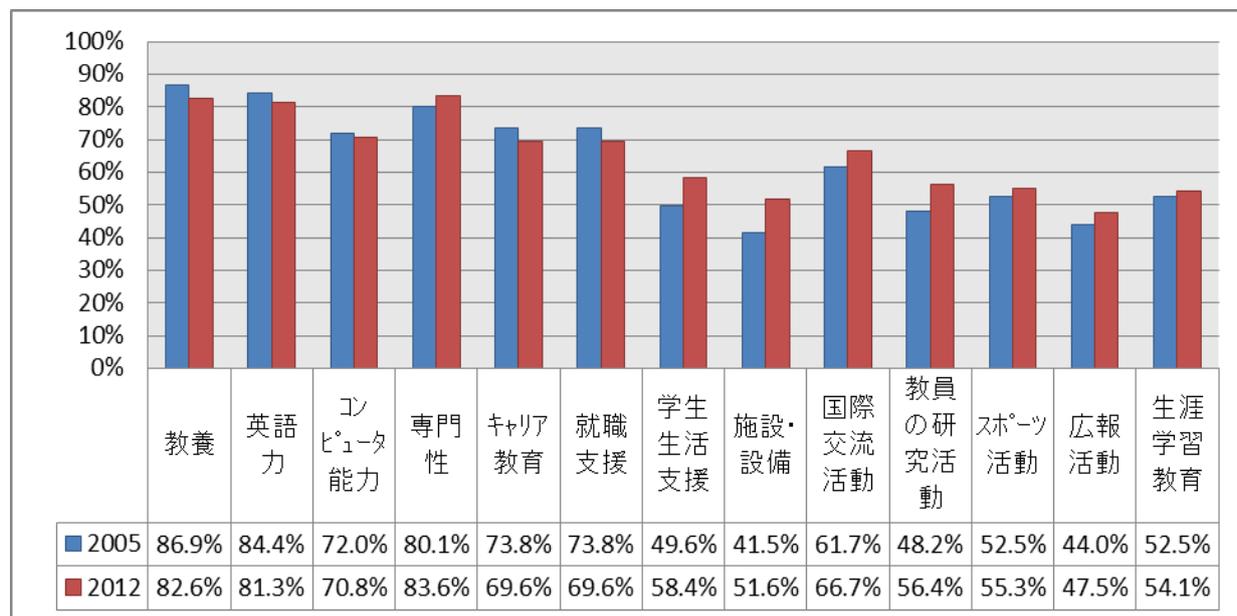
5 本学が今後さらに充実すべき点

図5は「法政大学が、今後さらに充実すべき点は何だとお考えですか」の質問に対する回答結果です。項目ごとの充実すべき度（「強い(5)」+「やや強い(4)」の割合）は、2005年度卒では、「教養を高めるための教育」(86.9%)が最も高く、「英語力を高めるための教育」(84.4%)、「専門性を高める教育」(80.1%)と続いています。

2012年度卒では、「専門性を高めるための教育」(83.6%)が最も高く、「教養を高めるための教育」(82.6%)、「英語力を高めるための教育」(81.3%)と続いています。

2005年度卒と2012年度卒で順位は異なるものの、どちらも「教養」、「英語力」、「専門性」を高めるための教育の充実を求める回答が多い結果となりました。

図5 本学が今後さらに充実すべき点 (%)



以上